



埼玉県農業技術研究センター



ホームページ

< 沿革 >

- 明治33年 埼玉県立農事試験場を玉井村（現熊谷市）に創設。
大正10年 本場を浦和町（現さいたま市）に移転し、農事試験場を玉井種芸部と改称。
越谷園芸部を南埼玉郡越谷町（現越谷市）に設置。
昭和 3年 埼玉県種畜場を大宮町（現さいたま市）に創設。
5年 入間川園芸部を入間郡入間川町（現狭山市）に設置。
8年 農事試験場本場を上尾市に移転。
23年 種畜場を大里郡小原村（現熊谷市）に移転し、跡地に埼玉県家禽普及指導所を設置。
25年 農事試験場を埼玉県農業試験場と改称。
34年 家禽普及指導所を埼玉県種鶏場と改称。
36年 種畜場を埼玉県畜産試験場と改称。
農業試験場経営部を入間郡鶴ヶ島町（現鶴ヶ島市）に設置。
38年 種鶏場を廃止し、埼玉県養鶏試験場を日高町（現日高市）に設置。
40年 農業試験場を熊谷市に移転。
園芸部を分離独立して埼玉県園芸試験場を久喜市に設置。
48年 経営部を農業試験場に統合、鶴ヶ島試験地として改称。
平成 9年 畜産試験場に養鶏試験場を統合し、埼玉県畜産センターと改称。
12年 試験研究機関を統合し、埼玉県農林総合研究センターとして発足。
（農業試験場を農林総合研究センター（本所）とし、他の試験場を支所に変更。）
15年 支所を研究所に名称変更。
18年 本所機能（熊谷市久保島）を江南町須賀広（現熊谷市）に移転。
畜産研究所長（職制）を設置。
本所を水田農業研究所に名称変更。
22年 鳥獣害防除担当（秩父市駐在）を設置。
27年 茶業、水産、林業部門を分離し、埼玉県農業技術研究センターとして発足。
併せて、水田農業研究所を玉井試験場、園芸研究所を久喜試験場と改称。
鶴ヶ島試験地を廃止。
29年 久喜試験場内に次世代技術実証・普及センターを設置。
30年 病虫害防除対策担当を設置。

< 所在地 >





農業技術研究センター本所（本館）



玉井試験場（事務棟）



久喜試験場（次世代技術実証・普及センター温室）

農業技術研究センターの業務

農業技術研究センターは、埼玉県の主穀作、園芸及び畜産部門の公設試験研究機関です。

生産現場が大消費地に隣接しているという本県の「地の利」を生かし、農業者の収益性向上・産地の競争力強化のため、埼玉ブランドとなる品種の育成や環境変化に対応した省力・低コスト・高品質生産技術の開発・普及に取り組んでいます。

総務担当

- ◆総務事務の管理

企画担当

- ◆試験研究の企画・調整、進行管理
- ◆試験研究予算の管理
- ◆試験研究課題評価会議の事務
- ◆研究報告、業務報告の発行
- ◆知的財産の管理
- ◆試験研究成果等の情報発信、産学連携の推進



外部有識者による研究課題評価



県民等を対象に研究成果を発表
(研究員による研究成果のプレゼンテーション、実物・パネルの展示、説明)

環境安全担当

農作物の安定生産と高品質化を図るため、土壌環境の改善や効率的な施肥に関する技術を開発しています。また、農作物の安全性確保や環境負荷を軽減するための研究を行っています。

- ◆農耕地土壌の実態把握および管理技術の開発
- ◆未利用資源の利活用および安全施用技術の開発
- ◆新肥料・緑肥の利活用に関する技術の開発
- ◆農作物の安全性確保に関する研究
- ◆農薬残留対策・河川の農薬モニタリング調査



農耕地土壌の調査



肥料の成分分析



河川の農薬モニタリング調査

病害虫研究担当

問題となっている病害虫の生態を解明し、いち早く防除するための技術を開発しています。また、環境に配慮した総合的な病害虫管理技術や調査手法の開発などの研究を行っています。

- ◆新病害虫・難防除病害虫の防除技術の開発
- ◆総合的病害虫管理（IPM）技術の研究
- ◆病害虫診断技術・調査技術の開発
- ◆新農薬・資材の効果判定
- ◆病害虫診断および防除指導



サトイモ疫病菌による病斑



トマト灰色かび病菌の薬剤感受性検定



トマト灰色かび病菌の培地による薬剤感受性検定

鳥獣害防除担当

鳥獣による農作物被害を防ぐため、県内で問題となっている野生動物の生態を調査・解析し、農地への侵入防止対策や個体数管理などの技術開発を行っています。また、開発した技術を速やかに現地へ普及するための研修会などを実施しています。

- ◆野生動物モニタリング調査
- ◆野生鳥獣による被害防止技術に関する研究
- ◆野生動物管理に関する研究
- ◆被害防止のための啓発・指導



アライグマの捕食行動を利用した専用捕獲器「ラクーンキューブ」



中型動物とイノシシに対応した侵入防止柵「楽落くん」



電気柵の設置研修会

病虫害防除対策担当

県の病虫害防除所として農作物に被害を与える病虫害を調査し、生産者や市町村等に情報を提供することで、的確な防除を推進しています。また、農薬取締法に基づく農薬販売者の届出受理や立入検査、生産者に対する農薬の適正使用指導、肥料取締法に基づく製造事業所の検査や県が管轄する肥料に関して各種手続きを行っています。

- ◆病虫害の発生予察
- ◆重要な病虫害の防除対策
- ◆肥料・飼料の検査・指導・公表
- ◆普通肥料・特殊肥料の生産・販売に関する登録・届出事務
- ◆侵入警戒病虫害調査(侵入調査)
- ◆農薬販売に関する事務と農薬の適正使用指導



害虫の発生消長を把握するための発生予察灯（水田）

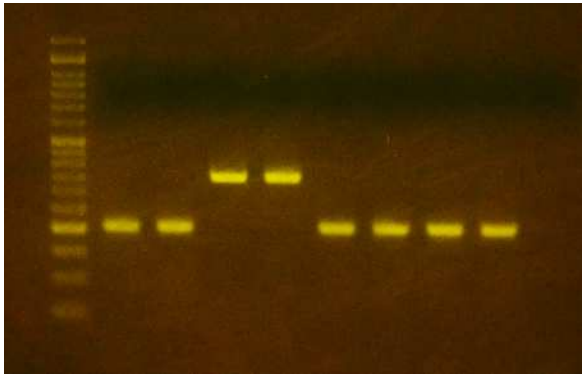


飼料生産事業場等への立入検査（試料収去）

遺伝子情報活用担当

DNA解析技術を活用した病害虫に強い品種育成のほか、新品種の判別技術や作物の病害診断技術などについて開発、研究を行っています。

- ◆有用DNAマーカーを活用した県オリジナル品種(水稲・イチゴ)の育成
- ◆遺伝子情報を利用した県育成品種の判別技術の開発
- ◆DNA解析技術を活用した病害虫等の検出・診断技術の開発



DNAマーカーによる遺伝子解析



水田水からの病害検出

水稲育種担当

本県の気候や土壌に適し、病害虫や気候変動に強く、良質・良食味な水稲品種の育成や原原種の維持、供給等を行っています。

- ◆水稲新品種の開発
- ◆水稲・麦類・大豆の系統維持・増殖
- ◆水稲奨励品種決定調査



暑さに負けない県育成品種「彩のきずな」



水稲の系統・品種維持のための栽培ほ場



水稲新品種開発のための世代促進栽培

野菜育種担当

「かおりん（埼園い1号）」「あまりん（埼園い3号）」「べにたま」に続く、次世代のイチゴ品種の育成・栽培技術の開発と特産野菜である丸系八つ頭優良系統の維持等を行っています。

- ◆イチゴの県オリジナル品種の開発
- ◆イチゴ栽培関連技術の研究
- ◆優良遺伝資源の維持・管理



かおりん（埼園い1号）

あまりん（埼園い3号）

べにたま

酪農担当

牛の飼養試験を中心として、飼料生産から飼料調製、給与、排泄物管理にわたるまで、一貫した試験研究を行っています。

- ◆自給飼料の生産技術開発および優良系統選定
- ◆牛の繁殖および飼養管理技術の研究
- ◆畜産環境の研究



微細断収穫したWCS用イネ「つきすずか」



暑熱期における「つきすずか」の給与試験風景

養豚・養鶏担当

豚、鶏の飼養管理方法や繁殖技術の開発とともに、ブランド畜産物であるタマシャモや彩の国黒豚の供給と改良等を行っています。

- ◆豚、鶏の遺伝資源維持および飼養管理技術の研究 ◆高度繁殖技術の開発並びに家畜の改良
- ◆「彩の国地鶏タマシャモ」の供給と改良
- ◆豚のIoT技術を用いたスマート農業化に関する研究
- ◆医学モデル豚の利活用に関する研究
- ◆卵肉兼用ブランド鶏の開発



改良した「彩の国地鶏タマシャモ」



県内黒豚改良のための英国産黒豚

水田高度利用担当

水稲、麦類、大豆の省力、安定、多収生産技術や気候変動に適応できる栽培技術の開発とともに、輪作体系による水田高度利用、ICT、RTを活用したスマート農業の研究を行っています。

- ◆異常気象対応水田作物生産技術の開発
- ◆水稲・麦類の高品質生産技術の開発
- ◆水稲・麦類の低コスト生産技術の開発
- ◆水田における高収益輪作技術の開発
- ◆水稲関係植物調節剤の適応性検討



高速高精度播種機による乾田直播栽培



ドローンによる水稲の生育診断



気候変動に対応した小麦栽培技術

高収益畑作担当

露地野菜等の収益性を高める生産技術や気候変動に適応できる栽培技術、省力化のための機械化技術の研究を行っています。

- ◆露地野菜等の高品質・安定生産技術の開発
- ◆露地野菜等の省力化栽培技術の開発



新規導入作物青パパイヤ



水田でのサトイモ栽培



加工業務用タマネギの省力化栽培



中山間地向け新規作物ショウガ栽培

施設園芸先端技術担当

施設野菜・花きにおける ICT や AI を活用した統合環境制御技術による省力・多収生産技術の開発とともに、商品性を高める研究や省エネを図る研究等を行っています。

- ◆施設果菜・花きの高品質安定生産技術の開発
- ◆ICT を活用した生産技術の開発
- ◆省エネが可能な生産技術の開発
- ◆園芸作物新品種の特性調査



キュウリの収量予測技術



トマトの草姿管理技術



焼却可能な培養土による鉢花栽培技術



ユリ切花の局所冷暖房技術

果樹担当

ナシ、ブドウの省力・軽労化や高品質化生産技術の開発とともに、諸障害回避技術の開発等を行っています。

- ◆花粉採取と受粉作業の省力化に向けたスマート農業技術の開発
- ◆ナシ「彩玉」に続く県オリジナル品種の育成
- ◆ブドウの高品質安定生産技術の開発
- ◆新たな樹形、新型機械導入による省力効果の検証



自走式花蕾採取機による花粉採取に適した樹形



県が育成したみずみずしい甘さのジャンボ梨「彩玉」



「シャインマスカット」の生理障害軽減



無人自動草刈り機導入

次世代技術実証普及担当

統合環境制御システムを導入したトマトの高品質栽培技術の実証と、研修会開催等による生産者への技術普及を行っています。

- ◆高軒高土耕ハウスにおけるトマトの長期多段（年1作）栽培の実証研究
- ◆トマト低段密植栽培（次世代施設園芸埼玉拠点）の調査研究



土耕ハウスにおける長期多段栽培



トマト低段密植栽培の調査（次世代施設園芸埼玉拠点）

農業革新支援担当

各農林振興センター（農業支援部）との連携強化を図り、効果的な普及活動が展開できるよう企画・調整を行っています。また、試験研究成果の普及や新たな技術の現地実証及び普及指導員の育成に係る研修等の活動を行っています。

◆普及と研究・行政との連携

◆先進農家への相談・支援

◆普及指導員の資質向上

◆技術普及活動（プロジェクト課題）



普及と研究・行政の情報共有を図る連携会議



イチゴ栽培技術習得のための普及指導員研修



ナシ栽培技術習得のための普及指導員研修



経営シミュレーションの演習風景



水稻新品種「えみほころ」の現地検討会



花植木品質改善技術の実証（遮熱資材の塗布作業）

埼玉県農業技術研究センター

担 当	所在地・電話
総務担当	〒360-0102 熊谷市須賀広 784 電話：048-536-0311（代表・総務担当）
企画担当	【企画担当】 048-536-0312
環境安全担当	【環境安全担当】 048-536-0347
病虫害研究担当	【病虫害研究担当】 048-536-0409
病虫害防除対策担当	【病虫害防除対策担当】 048-539-0661
遺伝子情報活用担当	【遺伝子情報活用担当】 048-536-3090
野菜育種担当	【野菜育種担当】 048-536-3090
酪農担当	【酪農担当】 048-536-0441
養豚・養鶏担当	【養豚・養鶏担当】 048-536-0440
高収益畑作担当	【高収益畑作担当】 048-536-0442
施設園芸先端技術担当	【施設園芸先端技術担当】 048-536-3091
水稻育種担当	〒360-0853 熊谷市玉井 195-1（玉井試験場） 電話：048-594-8321（代表）
水田高度利用担当	【水稻育種担当】 048-594-8334 【水田高度利用担当】 048-594-8321
果樹担当	〒346-0037 久喜市六万部 91（久喜試験場） 電話：0480-21-1113（代表）
次世代技術実証普及担当	【果樹担当】 0480-21-1141 【次世代技術実証普及担当】 0480-48-6804
鳥獣害防除担当	〒368-0034 秩父市日野田町 1-1-44（秩父農林振興センター内） 電話：0494-25-1660
農業革新支援担当	熊谷市須賀広 784 電話：048-536-6034
	久喜市六万部 91（久喜試験場） 電話：0480-21-1140
	入間市上谷ヶ貫 244-2（茶業研究所内） 電話：04-2936-2808
	さいたま市浦和区高砂 3-15-1（農業ビジネス支援課内） 電話：048-830-4095



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」